

東海北陸厚生局長 殿

国立大学法人
三重大学医学部附属病院
伊藤 正 氏

国立大学法人三重大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

- 1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3. 高度の医療に関する研修の実績

| | |
|--------|-----|
| 研修医の人数 | 59人 |
|--------|-----|

 (注)前年度の研修医の実績を記入すること
- 4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職種 | 常勤 | 非常勤 | 合計 | 職種 | 員数 | 職種 | 員数 |
|-------|------|------|--------|---------|-----|--------------|------------|
| 医師 | 227人 | 171人 | 379.9人 | 看護補助者 | 75人 | 診療エックス線技師 | 0人 |
| 歯科医師 | 8人 | 10人 | 17.6人 | 理学療法士 | 4人 | 臨床検査 衛生検査 | 臨床検査技師 55人 |
| 薬剤師 | 22人 | 26人 | 48.0人 | 作業療法士 | 2人 | | 衛生検査技師 1人 |
| 保健師 | 0人 | 2人 | 1.2人 | 視能訓練士 | 6人 | その他 | 2人 |
| 助産師 | 24人 | 2人 | 25.2人 | 義肢装具士 | 0人 | あん摩マッサージ指圧師 | 0人 |
| 看護師 | 407人 | 132人 | 490.2人 | 臨床工学士 | 19人 | 医療社会事業従事者 | 11人 |
| 准看護師 | 0人 | 6人 | 4.4人 | 栄養士 | 0人 | その他の技術員 | 21人 |
| 歯科衛生士 | 0人 | 6人 | 4.9人 | 歯科技工士 | 2人 | 事務職員 | 198人 |
| 管理栄養士 | 5人 | 5人 | 8.9人 | 診療放射線技師 | 37人 | その他の職員 | 46人 |

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3. 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。
 それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合計 |
|---------------|----------|-------|----------|
| 1日当たりの平均入院患者数 | 525.0人 | 12.3人 | 537.3人 |
| 1日当たりの平均外来患者数 | 1,109.4人 | 92.3人 | 1,201.7人 |
| 1日当たりの平均調剤数 | | | 597.3剤 |

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱い患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|---|-------|
| 先天性血液凝固異常症の遺伝子診断 | 4人 |
| 骨髄細胞移植による血管新生療法 | 0人 |
| 末梢血単核球移植による血管新生治療 | 1人 |
| CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法 | 0人 |
| EBウイルス感染症迅速診断(リアルタイムPCR法) | 0人 |
| 実物大臓器立体モデルによる手術支援 | 0人 |
| IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価 | 74人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱い患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|---|-------|
| 経皮的肺がんラジオ波焼灼療法 原発性又は転移性肺がん(切除が困難なものに限る) | 0人 |
| 経皮的腎がんラジオ波焼灼療法 原発性又は転移性腎がん(切除が困難なものに限る) | 0人 |
| 腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん | 0人 |
| パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん | 0人 |
| 術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る) | 0人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|--|------------------|-------|----|
| 医療技術名 | 副腎腫瘍に対するラジオ波焼灼療法 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 ラジオ波通電用手電極をCT画像ガイド下にて経皮的に腫瘍に穿刺し、腫瘍に対してラジオ波発生装置による凝固療法 | | | |
| 医療技術名 | 舌下免疫療法 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要 スギ花粉症の原因であるスギ花粉のエキスを食パンのかけらにたらし、舌の下に2～3分程度含むことにより、エキスを継続的に体内に入れて体を慣らし、アレルギー反応を減らす | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾 患 名 | 取扱い 患者数 | 疾 患 名 | 取扱い 患者数 |
|---------------------|------------|---------------------------|------------|
| ・ベーチェット病 | 47 人 | ・膿疱性乾癬 | 9 人 |
| ・多発性硬化症 | 52 人 | ・広範脊柱管狭窄症 | 1 人 |
| ・重症筋無力症 | 51 人 | ・原発性胆汁性肝硬変 | 48 人 |
| ・全身性エリテマトーデス | 138 人 | ・重症急性膵炎 | 8 人 |
| ・スモン | 3 人 | ・特発性大腿骨頭壊死症 | 13 人 |
| ・再生不良性貧血 | 39 人 | ・混合性結合組織病 | 23 人 |
| ・サルコイドーシス | 58 人 | ・原発性免疫不全症候群 | 2 人 |
| ・筋萎縮性側索硬化症 | 29 人 | ・特発性間質性肺炎 | 10 人 |
| ・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 185 人 | ・網膜色素変性症 | 29 人 |
| ・特発性血小板減少性紫斑病 | 57 人 | ・プリオン病 | 1 人 |
| ・結節性動脈周囲炎 | 13 人 | ・肺動脈性肺高血圧症 | 18 人 |
| ・潰瘍性大腸炎 | 243 人 | ・神経線維腫症 | 14 人 |
| ・大動脈炎症候群 | 18 人 | ・亜急性硬化性全脳炎 | 0 人 |
| ・ピュルガー病 | 11 人 | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群 | 1 人 |
| ・天疱瘡 | 29 人 | ・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型) | 14 人 |
| ・脊髄小脳変性症 | 35 人 | ・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む | 0 人 |
| ・クローン病 | 129 人 | ・副腎白質ジストロフィー | 0 人 |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎 | 4 人 | ・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 0 人 |
| ・悪性関節リウマチ | 6 人 | ・脊髄性筋萎縮症 | 0 人 |
| ・パーキンソン病関連疾患 | 120 人 | ・球脊髄性筋萎縮症 | 0 人 |
| ・アミロイドーシス | 10 人 | ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 | 7 人 |
| ・後縦靭帯骨化症 | 59 人 | ・肥大型心筋症 | 4 人 |
| ・ハンチントン病 | 2 人 | ・拘束型心筋症 | 0 人 |
| ・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症) | 35 人 | ・ミトコンドリア病 | 1 人 |
| ・ウェゲナー肉芽腫症 | 2 人 | ・リンパ脈管筋腫症(LAM) | 1 人 |
| ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症 | 50 人 | ・重症多形滲出性紅斑(急性期) | 2 人 |
| ・多系統萎縮症 | 13 人 | ・黄色靭帯骨化症 | 0 人 |
| ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型) | 1 人 | ・間脳下垂体機能障害 | 45 人 |
| | | 合計 | 1690 人 |

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|-------------------------------|----------|
| ▪ HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験 | ▪ |
| ▪ 先天性難聴の遺伝子診断 | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |
| ▪ | ▪ |

(注)「施設基準等の種類」欄には業務報告を行う3年前の4月以降に健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供したものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病院・臨床検査部門の概要

| | |
|--------------------------------------|---|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の 状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 <input type="checkbox"/> 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査 部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 1週間に 1回程度(3種類の検討会) 1カ月に 2回程度(1種類の検討会) 1カ月に 1回程度(2種類の検討会) |
| 剖 検 の 状 況 | 剖検症例数 19 例 剖検率 6 % |

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| No. | 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|-----|--|-------------------|-----------|-------------|--|
| 1 | 途上国における食と生活習慣によるアルツハイマー病発症のリスク評価と予防法の構築 | 翠川 薫 | 大学院医学系研究科 | 1,560,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 2 | 末梢におけるFOX P3陽性制御性T細胞への分化メカニズム解析とがん治療への応用 | 宮原 慶裕 | 大学院医学系研究科 | 1,820,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 3 | IL-10の局所誘導によるスギ花粉症及びアトピー性皮膚炎の治療 | 山中 恵一 | 大学院医学系研究科 | 1,430,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 4 | 肥満による慢性炎症性病変の新規制御機構の解析 | 緒方 正人 | 大学院医学系研究科 | 1,690,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 5 | フローサイトメトリーによる核酸代謝酵素欠損症診断法の基礎的検討 | 登 勉 | 大学院医学系研究科 | 1,950,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 6 | 紀伊半島のALSとパーキンソン認知症複合患者由来iPS細胞の作成と神経細胞誘導 | 小久保 康昌 | 大学院医学系研究科 | 1,430,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 7 | 進行肝細胞癌に対する、標準的肝動注化学療法確立に関する多施設共同研究 | 高木 治行 | 医学部 | 910,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 8 | 弱毒化ポリオウイルスを用いた悪性骨軟部腫瘍に対する画期的な細胞融解療法の開発 | 松峯 昭彦 | 大学院医学系研究科 | 1,560,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 9 | 人工呼吸器誘発肺傷害(VILI)の硫化水素による治療 | 張 尔泉 | 大学院医学系研究科 | 1,430,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 10 | 炎症関連がんにおけるmicroRNAの役割とバイオマーカーとしての有用性の検討 | 村田 真理子 | 大学院医学系研究科 | 1,820,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 11 | 次世代型メラノマ経鼻噴霧ワクチンベクターによる遺伝子免疫療法 | 河野 光雄 | 大学院医学系研究科 | 1,560,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 12 | 癌臓器特異的転移とその制御を目指した二光子レーザー顕微鏡下生体内イメージング | 森本 雄貴 | 大学院医学系研究科 | 1,430,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 13 | 造血幹細胞の発生機構の解明 | 山根 利之 | 大学院医学系研究科 | 1,950,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 14 | サリドマイド投与による自閉症モデルラットの解析 | 大河原 剛 | 大学院医学系研究科 | 1,170,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 15 | 術後早期白血球除去療法によるクローン病術後感染制御法の開発 | 吉山 繁幸 | 大学院医学系研究科 | 650,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 16 | 類洞内トロンピンレセプターの活性制御からみた脂肪肝手術適応拡大を目指した基礎研究 | 浜田 賢司 | 大学院医学系研究科 | 1,170,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 17 | 酸性環境下での発現細胞膜蛋白の解析と磁性体温熱療法による腫瘍標的治療の開発 | 浅沼 邦洋 | 大学院医学系研究科 | 520,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 18 | 前立腺肥大症治療薬のオフターゲット効果による再燃前立腺癌の新規治療戦略 | 石井 健一朗 | 大学院医学系研究科 | 1,560,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 19 | ストレス性内耳疾患の病態解明と臨床への応用 | 江藤 みちる (伊田みちる) | 医学部 | 1,300,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 20 | アラミン概念に基づく2光子レーザー顕微鏡を用いた壊死性腸炎の病態解明と治療戦略 | 小池 勇樹 | 大学院医学系研究科 | 1,560,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 21 | 膝痛患者の体験および看護支援プログラムの検討 | 犬丸 杏里 | 医学部 | 650,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 22 | 抗凝固療法のモニターと新しい抗血栓機序の解明 | 和田 英夫 | 大学院医学系研究科 | 2,730,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 23 | T細胞マルチファンクション性評価による効果的な癌のTCR改変T細胞療法開発 | 今井 奈緒子 | 大学院医学系研究科 | 2,860,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 24 | 加齢による肝疾患の病態制御の分子基盤の解明-特にSIRT1の機能解析- | 白木 克哉 | 大学院医学系研究科 | 2,080,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 25 | 心臓線維化における、内皮間葉移行現象の分子機序の解明 | 岡本 隆二 | 大学院医学系研究科 | 2,470,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 26 | RNA干渉を応用した慢性閉塞性疾患の新規治療戦略の開発 | Gabazza Esteban | 大学院医学系研究科 | 2,080,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 27 | エピゲノム制御分子を介した白血病の分子病態の解明 | 小笠 良一 | 大学院医学系研究科 | 1,820,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 28 | 弱毒ポリオウイルスを用いた神経芽腫の新しい治療法の研究 | 豊田 秀実 | 大学院医学系研究科 | 2,990,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 29 | 花粉症皮膚炎の病態解明と抑制性細胞誘導による治療 | 水谷 仁 | 大学院医学系研究科 | 2,340,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 30 | パニック障害における脳内ネットワーク障害と疾患発症要因についての統合的研究 | 谷井 久志 | 大学院医学系研究科 | 1,560,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 31 | 肝移植における肝炎ウイルス再発に対するテーラーメイド治療 | 臼井 正信 | 大学院医学系研究科 | 2,080,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 32 | 癌胎児性抗原特異的キメラ抗原受容体導入T細胞による消化器癌治療法の開発 | 王 立楠 | 大学院医学系研究科 | 2,080,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 33 | 食道癌に同時発現している癌抗原分子間でのがんワクチン前後の免疫拡大とその意義 | 影山 慎一 | 大学院医学系研究科 | 2,730,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 34 | 腫瘍関連マクロファージによる大腸癌の化学療法薬耐性獲得機構の解明 | 米田 操 | 大学院医学系研究科 | 2,080,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 35 | 肺高血圧における細胞外マトリックスの役割とその制御 | 新保 秀人 | 大学院医学系研究科 | 1,950,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 36 | 硫酸化ジェラン線維性素材を用いた生理活性コイルの開発研究 | 松島 聡 | 大学院医学系研究科 | 2,080,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |
| 37 | 硫化水素による実験的肺高血圧治療と内因性硫化水素産生系の解析 | 丸山 一男 | 大学院医学系研究科 | 1,560,000 円 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助元 科学研究費補助金 |

| | | | | | | | | |
|----|--|--------|-----------|-----------|---|-------------------------------------|----|----------|
| 38 | 疎水化多糖ナノゲルのイムノトランスポーター機能の機構解析と新規がん治療法への展開 | 原田 直純 | 大学院医学系研究科 | 2,340,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 39 | プロテオーム・メタボローム解析を用いたALS発症機構の解明とバイオマーカーの探索 | 及川 伸二 | 大学院医学系研究科 | 1,560,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 40 | 時空特異的白血球幹細胞発生モデルと病態特性 | 野阪 哲哉 | 大学院医学系研究科 | 1,300,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 41 | 二光子レーザー顕微鏡を用いた炎症性腸疾患モデルの生体内消化管全層解析と病態解明 | 楠 正人 | 大学院医学系研究科 | 2,080,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 42 | 生体吸収性ステントを支持基盤とした新たな血管吻合法の開発 | 武藤 紹士 | 大学院医学系研究科 | 1,820,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 43 | 造血系疾患の治療を目指した歯髄、骨髄の神経堤及び中胚葉由来間葉の造血支持能の研究 | 山崎 英俊 | 大学院医学系研究科 | 1,300,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 44 | ERK2の血球特異的活性化型変異による骨代謝異常に関する研究 | 杉村 和人 | 大学院医学系研究科 | 2,860,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 45 | 毛髪ミネラルとアトピー性皮膚炎との関連調査-6年後の追跡- | 山田 知美 | 大学院医学系研究科 | 2,470,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 46 | ScFv化抗テネシシンC抗体による心疾患の分子標的イメージング診断法の確立 | 下條 尚志 | 医学部 | 1,560,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 47 | チオレドキシニンによる炎症性大腸発がん制御とその機構解明 | 鳥井 美江 | 大学院医学系研究科 | 2,080,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 48 | 新しい4次元CT血管造影を用いた脳動脈瘤破裂メカニズムの解明 | 梅田 靖之 | 大学院医学系研究科 | 2,470,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 49 | 炎症性サイトカインによる尿管薬物トランスポーターの機能制御とその役割解明 | 奥田 真弘 | 医学部附属病院 | 2,470,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 50 | 肝臓に対するインクレチン作用機序の解明 | 藤田 尚己 | 医学部附属病院 | 1,820,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 51 | 小児急性リンパ性白血病の微小残存病変を用いた白血球幹細胞特性解析の試み | 出口 隆生 | 医学部附属病院 | 1,560,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 52 | 3テスラDENSE MRIによる左室壁内心筋ストレーンの定量的評価 | 佐久間 肇 | 医学部附属病院 | 1,560,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 53 | 胃癌腹膜播種形成に関与するエピジェネティック変化の分子機構と治療への応用 | 安田 裕美 | 医学部附属病院 | 1,300,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 54 | 小児難治性炎症性腸疾患の病態に関する二光子レーザー顕微鏡リアルタイムイメージング | 内田 恵一 | 医学部附属病院 | 1,300,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 55 | 潰瘍性大腸炎関連性大腸癌に対する新しい早期診断法有効性の検討と確立に向けた研究 | 荒木 俊光 | 医学部附属病院 | 780,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 56 | 難治性副鼻腔炎におけるドランスフォーミング成長因子αの役割と治療法の開発 | 石永 一 | 医学部附属病院 | 1,170,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 57 | 勃起不全治療薬ホスホジエステラーゼ5阻害剤は悪性黒色腫の分子標的となり得るか? | 清水 香澄 | 医学部附属病院 | 1,560,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 58 | PDEの唾液タンパク質促進による誤嚥性肺炎の新しい治療法の開発 | 村田 琢 | 医学部附属病院 | 1,300,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 59 | 乳房超音波画像診断におけるコンピュータ支援診断システムの開発と有用性の臨床評価 | 中山 良平 | 医学部附属病院 | 910,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 60 | マイクロRNA網羅的解析を用いた胃癌腹膜播種転移の分子機構解明と新規治療法開発 | 奥川 喜永 | 医学部附属病院 | 1,430,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 61 | シェアストレスが胎児期静脈化決定因子に与える影響 | 横山 和人 | 医学部附属病院 | 1,170,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 62 | 薬物療法と交流電磁波暴露を組み合わせた交流電磁場下化学療法の新規治療開発 | 中村 知樹 | 医学部附属病院 | 1,300,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 63 | 細胞外環境制御による高悪性腫瘍治療法および腫瘍治療薬腫瘍取り込み増強法の開発 | 松原 孝夫 | 医学部附属病院 | 1,040,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 64 | 新生児脳における麻酔薬の副作用による神経細胞死の評価と予防法の開発 | 田川 剛志 | 医学部附属病院 | 1,560,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 65 | 組織移植術の新たな展開-二重鎖DNA技術の応用- | 植村 剛 | 医学部附属病院 | 1,690,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 66 | 白金系抗がん薬の過敏症発現機序に基づく再投与可能患者の選別法構築 | 岩本 卓也 | 医学部附属病院 | 2,340,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 67 | 糖尿病薬併用療法におけるファーマコゲノミクス検査の有用性の検討 | 中谷 中 | 医学部附属病院 | 3,380,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 68 | 遺伝子改変マウスを用いた肝線維化の発症機序の解明と新規治療法の開発 | 岩佐 元雄 | 医学部附属病院 | 2,470,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 69 | 網羅的ペプチドミクスによるNASHの病態解析と分子標的の探索 | 山本 憲彦 | 医学部附属病院 | 2,080,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 70 | 白血病微小環境(骨髄及び中枢神経系)におけるN-カドヘリン分子機構の解明 | 岩本 彰太郎 | 医学部附属病院 | 2,210,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 71 | 肺高血圧における癌類似の病変形成と退縮の分子細胞機序の解明:新規動物モデルの検討 | 三谷 義英 | 医学部附属病院 | 2,080,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 72 | 精神病症状を伴う気分障害の視床下部-下垂体系脆弱性と前頭葉ネットワークの障害 | 城山 隆 | 医学部附属病院 | 1,560,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 73 | 直腸癌に対する化学放射線療法の最適化~エピジェネティクスの導入による新展開~ | 井上 靖浩 | 医学部附属病院 | 1,560,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 74 | エリスロポエチンによる虚血障害脊髄組織の再生 | 平野 弘嗣 | 医学部附属病院 | 1,820,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |

| | | | | | | | | |
|-----|--|--------|-----------|-----------|---|-------------------------------------|----|----------|
| 75 | 肺虚血再灌流障害の発症機序—薬剤によるIPC現象の確立— | 島本 亮 | 医学部附属病院 | 2,990,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 76 | 椎間板修復治療の臨床応用—生物学的修復治療の開発— | 明田 浩司 | 医学部附属病院 | 2,470,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 77 | 炎症性サイトカイン抑制による骨肉腫肺転移の制御 | 若林 弘樹 | 医学部附属病院 | 2,210,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 78 | 肺高血圧血管病変形成におけるエビジェネティクス制御 | 淀谷 典子 | 医学部附属病院 | 2,080,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 79 | 血管壁リモデリング制御因子Nog-Bの分子機能解析 | 近藤 ゆか | 医学部附属病院 | 1,690,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 80 | IL-17による乳癌微小環境形成と転移促進作用の機序解明 | 齋藤 佳菜子 | 医学部附属病院 | 2,600,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 81 | 二光子レーザー顕微鏡リアルタイムイメージングによるクローン病への薬剤効果判定 | 井上 幹大 | 医学部附属病院 | 2,080,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 82 | 2光子励起顕微鏡を用いた大腸癌化及び癌、周囲間質応答の新規確証提示 | 楠 正人 | 大学院医学系研究科 | 1,040,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 83 | 感染・炎症関連発がんの分子機構の解明とがん予防 | 村田 真理子 | 大学院医学系研究科 | 5,200,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 84 | 新規がん幹細胞モデルマウスの作製とMLL関連白血病発生の分子基盤 | 野阪 哲哉 | 大学院医学系研究科 | 5,850,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 85 | 中枢神経系機能性疾患における病態成熟過程の解析 | 岡田 元宏 | 大学院医学系研究科 | 4,680,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 86 | 中国南部に多発する上咽頭癌の分子疫学的研究と早期診断マーカーの探索 | 村田 真理子 | 大学院医学系研究科 | 5,980,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 87 | 心筋梗塞後の両室リモデリング進展における新たな修飾因子の解明 | 土肥 薫 | 大学院医学系研究科 | 910,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 88 | 慢性脳低還流状態における内皮細胞・血液脳関門障害の病態解明 | 矢田 健一郎 | 大学院医学系研究科 | 1,430,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 89 | 電気式離脱型頭蓋内ステントの開発研究 | 阪井田 博司 | 大学院医学系研究科 | 1,430,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 90 | VEGF(血管内皮増殖因子)中和抗体を用いた後縦帯骨化症治療の開発 | 浅沼 由美子 | 大学院医学系研究科 | 650,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 91 | がんの骨転移に対する物理化学的および分子生物学的治療の開発に関する研究 | 加藤 公 | 大学院医学系研究科 | 1,300,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 92 | 細胞外環境による前立腺・膀胱の発生や形態形成の制御機構 | 杉村 芳樹 | 大学院医学系研究科 | 1,040,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 93 | 前立腺ラテント癌から顕在癌までの癌浸潤マクロファージの解析 | 広川 佳史 | 大学院医学系研究科 | 650,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 94 | 小児スギ花粉症の舌下免疫療法と誘導性制御性T細胞およびIGG4による作用機序解明 | 湯田 厚司 | 大学院医学系研究科 | 780,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 95 | 上気道の難治病態における粘液分泌過剰の機序の解明とその制御 | 竹内 万彦 | 大学院医学系研究科 | 1,430,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 96 | 胚発生過程における多能性造血細胞の分化方向決定機構の解明 | 山根 利之 | 大学院医学系研究科 | 2,080,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 97 | プロテオミクスによる酸化損傷蛋白質を指標としたパーキンソン病リスク評価法の開発 | 及川 伸二 | 大学院医学系研究科 | 5,460,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 98 | ICU病棟におけるクリティカルケア看護のエスノグラフィ | 小幡 光子 | 医学部 | 650,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 99 | STAP2のメモリーCD8陽性T細胞における機能解析と癌免疫療法への応用 | 村岡大輔 | 医学系研究科 | 1,560,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 100 | 自然発生腫瘍マウスにおける抑制性免疫動態に関する研究 | 瀬尾 尚宏 | 大学院医学系研究科 | 1,560,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 101 | 大腸癌肺転移に対する経皮的ラジオ波凝固療法と肺切除の無作為化臨床比較試験 | 山門 亨一郎 | 医学部附属病院 | 650,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 102 | 肝移植医療における脂肪肝過小グラフトの限界と挑戦 | 水野 修吾 | 医学部附属病院 | 780,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 103 | 無症候性肺動脈性肺高血圧症の進展予測と早期治療効果に関する検討 | 山田 典一 | 医学部附属病院 | 650,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 104 | s1RNAによる気道リモデリング制御方法の検討及び創薬の可能性の検討 | 小林 哲 | 医学部附属病院 | 910,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 105 | 320列CTを用いた冠動脈プラークボリュームと心筋血流予備能の総合的診断法の確立 | 北川 覚也 | 医学部附属病院 | 1,170,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 106 | ラジオ波凝固による骨粗鬆症モデルへのビスフォスフォネート製剤の椎体内注入 | 中塚 豊真 | 医学部附属病院 | 520,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 107 | 直腸癌転移再発制御を旨とした癌幹細胞の放射線誘導性上皮間葉移行の分子生物学的研究 | 田中 光司 | 医学部附属病院 | 260,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 108 | くも膜下出血後脳損傷の病態解明と新規治療法の開発 | 鈴木 秀謙 | 医学部附属病院 | 1,170,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 109 | テネシンCの軟骨修復促進作用における分子機構の解明とその治療への応用 | 長谷川 正裕 | 医学部附属病院 | 1,300,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 110 | 炎症の観点からみた肥満妊娠と次世代へのエビジェネティクス制御に関する検討 | 杉山 隆 | 医学部附属病院 | 1,040,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 111 | 脂肪肝による肝移植への挑戦—虚血再還流障害から移植を炎症と凝固を礎として | 岸和田 昌之 | 医学部附属病院 | 780,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |

| | | | | | | | | |
|-----|--|-------|-----------|-----------|---|-------------------------------------|----|----------|
| 112 | 大腸癌肺転移形成に関与するエピジェネティック変化の分子機構と治療への応用 | 藤川 裕之 | 医学部附属病院 | 1,040,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 113 | 妊娠糖尿病における網膜症の進行機序解明と治療・検査への応用 | 杉本 昌彦 | 医学部附属病院 | 1,560,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 114 | 乳癌進展における微小環境シグナリングのリン酸化プロテオミクス解析と組織での可視化 | 吉田 利通 | 大学院医学系研究科 | 9,750,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 115 | 胎生期静脈化メカニズムを応用した静脈グラフト治療の実験的研究 | 武藤 紹士 | 大学院医学系研究科 | 3,380,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 116 | 生体内機能的T細胞の運命決定因子の解明とそのT細胞レセプター改変細胞療法への応用 | 池田 裕明 | 大学院医学系研究科 | 8,840,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 117 | 小児急性骨髄性白血病 (AML) に対する標準的治療法の確立 | 足立 壮一 | 医学部附属病院 | 2,000,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 118 | 小児期からの消化器系希少難治性疾患群の包括的調査研究とシームレスなガイドライン作成 | 田口 智章 | 医学部附属病院 | 600,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 119 | 小児造血器腫瘍に対する標準治療と診断確立のための研究 | 堀部 敬三 | 医学部附属病院 | 500,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 120 | 慢性特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) に対するリツキシマブの有効性と安全性の検討を目的とした第Ⅲ相オープンラベル試験 | 西川 政勝 | 医学部附属病院 | 1,200,000 | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | 補委 | 科学研究費補助金 |

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合には「委」に「レ」をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

| No. | 雑 誌 名 | 命 題 | 発 表 者 氏 名 | 所 属 部 門 |
|-----|--|---|---------------|---------|
| 1 | Biol Pharm Bull (平成24年9月) | Evaluation of basophil CD203c as a predictor of carboplatin-related hypersensitivity reaction in patients with gynecologic cancer. | 岩本 卓也 | 薬剤部 |
| 2 | Eur J Pharmacol (平成24年9月) | An antioxidant Trolox restores decreased oral absorption of cyclosporine A after liver ischemia-reperfusion through distinct mechanisms between CYP3A and P-glycoprotein in the small intestine. | 池村 健治 | 薬剤部 |
| 3 | Mol Pharmacol (平成25年2月) | MicroRNA-145 post-transcriptionally regulates the expression and function of P-glycoprotein in intestinal epithelial cells. | 池村 健治 | 薬剤部 |
| 4 | J Neurosurg Anesthesiol (2012,4) | Head Positioning for Reduction and Stabilization of the Cervical Spine During Anesthetic Induction in a Patient With Subaxial Subluxation | Asano N | 整形外科 |
| 5 | Rheumatol Int (2012,5) | A tumor endoprosthesis is useful in elderly rheumatoid arthritis patient with acute intercondylar fracture of the distal femur | Wakabayashi H | 整形外科 |
| 6 | J Arthroplasty (2012,6) | Cobalt and chromium ion release after large-diameter metal-on-metal total hip arthroplasty. | Hasegawa M | 整形外科 |
| 7 | Pediatr Orthop B (2012,6) | Recurrent knee Valgus deformity in Ellis-van Creveld syndrome | Fukuda A | 整形外科 |
| 8 | IEEE Trans Ultrason Ferroelectr Freq Control (2012,9) | Ultrasonic measurement of bone thickness for spinal surgery | Yamada M | 整形外科 |
| 9 | J Orthop Sci (2012,9) | Prevalence and characteristics of unilateral knee osteoarthritis in a community sample of elderly Japanese: do fractures around the knee affect the pathogenesis of unilateral knee osteoarthritis? | Nisimura A | 整形外科 |
| 10 | Int J Oncol (2012,9) | Oncolytic virotherapy for human bone and soft tissue sarcomas using live attenuated poliovirus | Atumi S | 整形外科 |
| 11 | IEEE Trans Ultrason Ferroelectr Freq Control (2012,9) | Ultrasonic measurement of bone thickness for spinal surgery | Yamada M | 整形外科 |
| 12 | J Orthop Sci (2012,10) | Arthroscopically assisted minimally invasive plate osteosynthesis for posterior fracture-dislocation of shoulder | Fukuda A | 整形外科 |
| 13 | Popul Health Metr (2012,11) | Global burden of metabolic risk factors of chronic diseases collaborating group (body mass index) national regional and global trends in adult overweight and obesity prevalences | Stevens GA | 整形外科 |
| 14 | J Gene Med (2012,11) | Transfection of nuclear factor-kappaB decoy oligodeoxynucleotide protects against ischemia/reperfusion injury in a rat epigastric flap model | Uemura T | 整形外科 |
| 15 | Arthritis Res Ther (2012,11) | Effect of autologous platelet-rich plasma-releasate on intervertebral disc degeneration in the rabbit anular puncture model: a preclinical study | Obata S | 整形外科 |
| 16 | Rheumatol Int (2012,11) | Repeat etanercept administration restores clinical response of patients with rheumatoid arthritis | Wakabayashi H | 整形外科 |
| 17 | Oncol Rep (2012,12) | Prosthetic limb salvage surgery for bone and soft tissue tumors around the knee. | Niimi R | 整形外科 |
| 18 | Anesth Analg (2012,12) | Technical communication:anatomy and clinical implications of ultrasound-guided selective femoral nerve block | Ishiguro S | 整形外科 |

2 論文発表等の実績

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|--------------------------------------|---|---------------|-------|
| 19 | Curr Pharm Des (2012,4) | Translational research of photodynamic therapy with acridine orange which targets cancer acidity | Kusuzaki K | 整形外科 |
| 20 | Eur J Cancer (2013,1) | The value of C-reactive protein and comorbidity in predicting survival of patients with high grade soft tissue sarcoma | Nakamura T | 整形外科 |
| 21 | Int Orthop (2013,1) | Cutting and implanting errors in minimally invasive total knee arthroplasty using a navigation system | Hasegawa M | 整形外科 |
| 22 | Mod Rheumatol (2013,1) | The efficacy of rebamipide add-on therapy in arthritic patients with COX-2 selective inhibitor-related gastrointestinal events:a prospective,randomized,open-label blinded-endpoint pilot study by the GLORIA study group | Hasegawa M | 整形外科 |
| 23 | Eur J Cancer (2013,1) | The value of C-reactive protein and comorbidity in predicting survival of patients with high grade soft tissue sarcoma | Nakamura T | 整形外科 |
| 24 | J Anesth (2013,2) | Day zero ambulation under modified femoral nerve block after minimally invasive surgery for total knee arthroplasty:preliminary report | Ishiguro S | 整形外科 |
| 25 | Spine (Phila Pa 1976) (2013,2) | Tissue rennin-angiotensin system in the intervertebral disc | Morimoto R | 整形外科 |
| 26 | Clin Rheumatol (2013,2) | Clinical outcome in patients with rheumatoid arthritis switched to tocilizumab after etanercept of infliximab failure | Wakabayashi H | 整形外科 |
| 27 | J Mech Behav Biomed Mater (2013,2) | Failure analysis of sandwich-type ceramic-on-ceramic hip joints:A spectroscopic investigation into the role of the polyethylene shell component | Okita S | 整形外科 |
| 28 | Clin Orthop Relat Res (2013,3) | Can aless radical surgery using photodynamic therapy with acridine orange be equal to a wide-margin resection? | Matsubara T | 整形外科 |
| 29 | BMC Musculoskelet Disord (2013, 3) | Protective effect of edaravonefor tourniquet-induced ischemia-reperfusion injury on skeletal muscle in murine hindlimb | Hori K | 整形外科 |
| 30 | Jpn J Radiol (2012/8) | Ablative zone size created by radiofrequency ablation with and without chemoembolization in small hepatocellular carcinomas. | Yamanaka T | IVR科 |
| 31 | Jpn J Radiol (2012/8) | Hepatic arterial embolization for unresectable hepatocellular carcinomas: do technical factors affect prognosis? | Yamakado K | IVR科 |
| 32 | Jpn J Radiol (2012/8) | Radiofrequency ablation for colorectal liver metastases: prognostic factors in non-surgical candidates. | Hamada A | IVR科 |
| 33 | Clin Radiol (2013/2) | CT-fluoroscopy in chest interventional radiology: sliding scale of imaging parameters based on radiation exposure dose and factors increasing radiation exposure dose. | Yamao Y | IVR科 |
| 34 | J Vasc Inter Radiol (2012/12) | Combination therapy of chemoembolization and radiofrequency ablation for the treatment of hepatocellular carcinoma in the caudate lobe. | Fuimori M | IVR科 |
| 35 | Cardiovasc intervent Rdiol (2012/12) | Combination therapy of chemoembolization and radiofrequency ablation for the treatment of hepatocellular carcinoma in the caudate lobe. | Yamakado K | IVR科 |
| 36 | J Echocardiogr (2013/4). | Echocardiographic estimation of pulmonary capillary wedge pressure using the combination of diastolic annular and mitral inflow velocities | Sugimoto T | 循環器内科 |
| 37 | 心臓 | 当院における静脈血栓塞栓症に対するフォンダパリヌクスの治療経験 | 松田 明正 | 循環器内科 |
| 38 | Am J Cardiol 2012 | Comparison of coronary flow velocity reserve measurement by transthoracic Doppler echocardiography with 320-row multidetector computed tomographic coronary angiography in the detection of in-stent restenosis in the three major coronary arteries. | Kentaro K | 循環器内科 |

2 論文発表等の実績

| No. | 雑誌名 | 題名 | 命 発表者氏名 | 所 属 部 門 |
|-----|---|---|-------------|---------|
| 39 | Circ J 2012 | Impaired myocardial perfusion reserve in patients with fatty liver disease assessed by quantitative myocardial perfusion magnetic resonance imaging | Shiro N | 循環器内科 |
| 40 | Anticancer Res 2012 | Clinical utility of transarterial infusion chemotherapy using cisplatin-lipiodol emulsion for unresectable hepatocellular carcinoma. | Teesuya B | 循環器内科 |
| 41 | J Cardiol 2012 | Short-term effects of low-dose tolvaptan on hemodynamic parameters in patients with chronic heart failure. | Kiyotaka W | 循環器内科 |
| 42 | Heart 2013 | Interrelationship between haemodynamic state and serum intact parathyroid hormone levels in patients with chronic heart failure. | Tadafumi S | 循環器内科 |
| 43 | Circ J 2013 | Urine Osmolality-Guided Tolvaptan Therapy in Decompensated Heart Failure | Kaoru D | 循環器内科 |
| 44 | Int J oncol | Sorafenib and TRAIL Have Synergistic Effect on Hepatocellular Carcinoma | Keiichiro N | 循環器内科 |
| 45 | 日本皮膚科学会雑誌 2012/12 | スマートフォン、タブレット端末が面白い iPhone/iPadではじめるクラウド活用法皮膚科医編(解説) | 磯田 憲一 | 皮膚科 |
| 46 | Journal of Integrated Medicine 2013/2 | 【かゆみ大全】困る痒みの対処法 アトピー性皮膚炎(解説/特集) | 水谷 仁 | 皮膚科 |
| 47 | 東方医学 2012/12 | 強皮症患者が訴える皮膚のこわばり感への低周波鍼通電治療 | 向井 雄高 | 皮膚科 |
| 48 | アレルギー・免疫 2012/10 | 【アレルギー疾患の臨床研究2～皮膚科、耳鼻科～】皮膚科 アレルギー性皮膚疾患の評価方法の現状と将来の展望 アトピー性皮膚炎(解説/特集) | 水谷 仁 | 皮膚科 |
| 49 | 臨床皮膚科 2012/4 | 【最近のトピックス2012 Clinical Dermatology 2012】皮膚科医のための臨床トピックス 皮膚科診療に役立つiPad(解説/用語) | 磯田 憲一 | 皮膚科 |
| 50 | J Hematol 2013/3 | Presence of antiphospholipid antibody is a risk factor in thrombotic events in patients with antiphospholipid syndrome or relevant diseases | Habe K | 皮膚科 |
| 51 | Intern Med 2013 | Two patients with antiphospholipid antibody developed disseminated intravascular coagulation. | Habe K | 皮膚科 |
| 52 | Plos One 2012/7 | Ustekinumab Improves Psoriasis without Altering T Cell Cytokine Production, Differentiation, and T Cell Receptor Repertoire Diversity. | Tsuda K | 皮膚科 |
| 53 | PLos One 2012/7 | Calcineurin Inhibitors Suppress Cytokine Production from Memory T Cells and Differentiation of Naïve T Cells into Cytokine-Producing Mature T Cells | Tsuda K | 皮膚科 |
| 54 | Thromb Res 2012/5 | Plasma ADAMTS13, von Willebrand factor (VWF) and VWF propeptide profiles in patients with DIC and related diseases. | Habe K | 皮膚科 |
| 55 | Diabetes Research and Clinical Practice 2012/6 | Seasonal variation in visceral fat and blood HbA1c in people with type 2 diabetes | Iwata K | 栄養室 |
| 56 | Blood 2012 | Aurora kinase A-specific T-cell receptor gene transfer redirects T lymphocytes to display effective antileukemia reactivity. | Nagai K | がんワクチン |
| 57 | Cancer Res 2012 | Intracellular tumor-associated antigens represent effective targets for passive immunotherapy | Noguchi T | がんワクチン |
| 58 | Cytotherapy 2012 | Peptide-pulsed dendritic cell vaccination targeting interleukin-13 receptor $\alpha 2$ chain in recurrent malignant glioma patients with HLA-A*24/A*02 allele | Iwami K | がんワクチン |
| 59 | Cancer Sci 2012 | T-cell receptor gene therapy targeting melanoma-associated antigen-A4 inhibits human tumor growth in non-obese diabetic/SCID/ γ cnull mice. | Shirakura Y | がんワクチン |
| 60 | Cancer Immun 2012 | Cell surface antigens: invaluable landmarks reflecting the nature of cells | Takahashi T | がんワクチン |

2 論文発表等の実績

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|---|---|------------|--------|
| 61 | Cancer Immunol 2012 | Autologous typing: a tedious but orthodox approach for defining human tumor antigens with clarity | Shiku H | がんワクチン |
| 62 | Exp Hematol 2012 | Manipulation of human early T lymphopoiesis by coculture on human bone marrow stromal cells: potential utility for adoptive immunotherapy. | Liu B | がんワクチン |
| 63 | Mol. Ther. Nucleic Acids 2012 | A Promising Vector for TCR Gene Therapy: Differential Effect of siRNA, 2A Peptide, and Disulfide Bond on the Introduced TCR Expression | Okamoto S | がんワクチン |
| 64 | Gene Ther 2012 | siRNA-mediated silencing of PD-1 ligands enhances tumor-specific human T-cell effector functions | Iwamura K | がんワクチン |
| 65 | Cancer Immunol 2013 | A novel human-derived antibody against NY-ESO-1 improves the efficacy of chemotherapy | Gupta A | がんワクチン |
| 66 | Eur. J. Immunol 2013 | Overcoming regulatory T-cell suppression by a lyophilized preparation of Streptococcus pyogenes | Hirayama M | がんワクチン |
| 67 | PLoS One 2013 | Co-Introduced Functional CCR2 Potentiates In Vivo Anti-Lung Cancer Functionality Mediated by T Cells Double Gene-Modified to Express WT1-Specific T-Cell Receptor | Asai H | がんワクチン |
| 68 | euro. Oncol 2013 | Adoptive transfer of genetically modified Wilms' tumor 1-specific T cells in a novel malignant skull base meningioma model. | Iwami K | がんワクチン |
| 69 | Vaccine 2013 | Establishment of animal models to analyze the kinetics and distribution of human tumor antigen-specific CD8 ⁺ T cells. | Muraoka D | がんワクチン |
| 70 | Blood 2013 | Development of a novel redirected T-cell-based adoptive immunotherapy targeting human telomerase reverse transcriptase for adult T-cell leukemia. | Miyazaki Y | がんワクチン |
| 71 | 臨床化学 2012 | DIC診断基準の評価並びに検査項目のカットオフ値の検討 | 和田 英夫 | 検査医学 |
| 72 | 日本検査血液学会雑誌 2012 | Qプローブ法(GENECUBE)におけるJAK2遺伝子変異V617F測定の構築 | 阿部 泰典 | 検査医学 |
| 73 | 臨床検査 2013 | 遺伝子関連検査 | 登 勉 | 検査医学 |
| 74 | Medical Technology 2012 | コンパニオン診断薬 | 登 勉 | 検査医学 |
| 75 | 腎移植・血管外科 2012 | CYP3A5遺伝子多型が移植後早期のタクロリムス徐放製剤投与量に及ぼす影響 | 西川 晃平 | 検査医学 |
| 76 | 検査と技術 2013 | コンパニオン診断薬とは | 登 勉 | 検査医学 |
| 77 | IJCLA 2013 | GENECUBEを用いたQプローブ法によるIL28B遺伝子SNP解析法の開発 | 松尾 百華 | 検査医学 |
| 78 | Int J Hematol 2012 | Frequent association of thrombophilia in cerebral venous sinus thrombosis | Ikejiri M | 検査医学 |
| 79 | Atherosclerosis 2012 | A multicenter study on the precision and accuracy of homogeneous assays for LDL-cholesterol: comparison with a beta-quantification method using fresh serum obtained from non-diseased and diseased subjects. | Miida T | 検査医学 |
| 80 | Int J Mol Med 2013 | Serum protein isoform profiles indicate the progression of hepatitis C virus-induced liver diseases. | Sugimoto K | 検査医学 |
| 81 | Int Arch Allergy Immunol 2013 | Differential activation of eosinophils by bacteria associated with asthma | Hosoki K | 検査医学 |
| 82 | European Journal of Haematology 2013 | Clinical utility of a panfungal polymerase chain reaction assay for invasive fungal diseases in patients with haematologic disorders. | Sugawara Y | 検査医学 |
| 83 | J Pediatr Surg 2013/3 | Clinical implications of CES2RNA expression in neuroblastoma | 内田 恵一 | 小児外科 |

2 論文発表等の実績

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|---|--|-------|-------|
| 84 | J Gastrointest Surg 2013/3 | Characteristics of extremely early-onset pouchitis after proctocolectomy with ileal pouch-anal anastomosis | 大北 善基 | 消化管外科 |
| 85 | Pediatr Surg Int 2013/3 | Self-reported assessment of health-related quality of life in children who underwent restorative proctocolectomy with ileal J-pouch anal anastomosis for ulcerative colitis. | 内田 恵一 | 小児外科 |
| 86 | Asian J Endosc Surg 2013/2 | Transumbilical single-incision laparoscopic ileocecal resection for Crohn's disease in a child. | 井上 幹大 | 小児外科 |
| 87 | Oncology 2013/2 | Prognostic significance of a systemic inflammatory response in patients undergoing multimodality therapy for advanced colorectal cancer | 井上 靖浩 | 消化管外科 |
| 88 | Surg Today 2013/2 | Intravital imaging of gastrointestinal diseases in preclinical models using two-photon laser scanning microscopy. | 田中 光司 | 消化管外科 |
| 89 | Br J Cancer 2013/1 | Brain-derived neurotrophic factor/tropomyosin-related kinase B pathway in gastric cancer | 奥川 善永 | 消化管外科 |
| 90 | Oncol Rep 2012/11 | In vivo real-time imaging of chemotherapy response on the liver metastatic tumor microenvironment using multiphoton microscopy | 田中 光司 | 消化管外科 |
| 91 | Oncol Rep 2012/11 | The prognostic value of KRAS mutations in patients with colorectal cancer. | 井上 靖浩 | 消化管外科 |
| 92 | Anticancer Res 2012/10 | Inflammation-based prognostic score as a predictor of postoperative gastric cancer recurrence. | 毛利 靖彦 | 消化管外科 |
| 93 | Pediatr Int 2012/10 | Unique capsule endoscopic appearance of segmental intestinal dilatation in a child. | 内田 恵一 | 小児外科 |
| 94 | Oncol Rep 2012/11 | Gene expression profiles of tumor regression grade in locally advanced rectal cancer after neoadjuvant chemoradiotherapy | 田中 光司 | 消化管外科 |
| 95 | J Pediatr Surg 2012/7 | Glycolysis inhibitors as a potential therapeutic option to treat aggressive neuroblastoma expressing GLUT1 | 松下 航平 | 小児外科 |
| 96 | Jpn J Radiol 2012/8 | Radiofrequency ablation for colorectal liver metastases: prognostic factors in non-surgical candidates | 井上 靖浩 | 消化管外科 |
| 97 | Pediatr Surg Int 2012/7 | Tumor enucleation with preoperative endoscopic transpapillary stenting for pediatric insulinoma. | 井出 正造 | 小児外科 |
| 98 | Pediatr Int 2012/12 | Double balloon enteroscopy for pediatric inflammatory bowel disease | 内田 恵一 | 小児外科 |
| 99 | Anticancer Res 2012/4 | Correlation of MACC1 and MET expression in rectal cancer after neoadjuvant chemoradiotherapy. | 川村 幹雄 | 消化管外科 |
| 100 | J Gastroenterol 2012/7 | High TrkB expression levels are associated with poor prognosis and EMT induction in colorectal cancer cells | 藤川 裕之 | 消化管外科 |
| 101 | J Surg Res 2012/6 | Clinical significance of serum soluble E-cadherin in colorectal carcinoma | 奥川 善永 | 消化管外科 |
| 102 | Eur J Cancer 2012/9 | CXCL5, a promoter of cell proliferation, migration and invasion, is a novel serum prognostic marker in patients with colorectal cancer | 川村 幹雄 | 消化管外科 |
| 103 | J Laparoendosc Adv Surg Tsch A 2012/4 | Use of endoscopic surgical spacer to improve safety during thoracoscopic repair of congenital diaphragmatic hernia. | 井上 幹大 | 小児外科 |
| 104 | Clin Oncol 2012/11 | Clinical correlations and prognostic relevance of tissue angiogenic factors in patients with gastric cancer | 毛利 靖彦 | 消化管外科 |
| 105 | J Surg Oncol 2012/9 | Clinical significance of Zinc finger E-box Binding homeobox 1 (ZEB1) in human gastric cancer. | 奥川 善永 | 消化管外科 |
| 106 | Surg Today 2012/5 | Prognostic significance of glucose transporter-1 (GLUT1) gene expression in rectal cancer after preoperative chemoradiotherapy | 間山 祐二 | 消化管外科 |

2 論文発表等の実績

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|---|--|----------|-------|
| 107 | J Surg Oncol 2012/5 | TS and DPD mRNA levels on formalin-fixed paraffin-embedded specimens as predictors for distant recurrence of rectal cancer treated with preoperative chemoradiotherapy. | 田中 光司 | 消化管外科 |
| 108 | Ann Surg Oncol 2012/7 | Soluble CXCL16 in preoperative serum is a novel prognostic marker and predicts recurrence of liver metastases in colorectal cancer patients | 松下 航平 | 消化管外科 |
| 109 | Int J Cancer 2012/6 | Co-expression of hepatocyte growth factor and c-Met predicts peritoneal dissemination established by autocrine hepatocyte growth factor/c-Met signaling in gastric cancer | 間山 祐二 | 消化管外科 |
| 110 | Br J Cancer 2012/10 | Macrophage migration inhibitory factor and DJ-1 in gastric cancer: differences between high-incidence and low-incidence areas. | 毛利 靖彦 | 消化管外科 |
| 111 | Hepatol Res 2013/1 | Leucine-rich repeat-containing G protein-coupled receptor 5 expression in ductular reactions after chemotherapy for metastatic colorectal cancer | 田中 光司 | 消化管外科 |
| 112 | J Cancer Res Clin Oncol 2013/1 | Significant correlation between LKB1 and LGR5 gene expression and the association with poor recurrence-free survival in rectal cancer after preoperative chemoradiotherapy | 井上 靖浩 | 消化管外科 |
| 113 | Int J Oncol 2012/11 | Clinical significance of LGR5 and CD44 expression in locally advanced rectal cancer after preoperative chemoradiotherapy | 井上 靖浩 | 消化管外科 |
| 114 | PROGRESS IN MEDICINE 2012/10 | 無症候性脳梗塞, 白質病変, 高齢者に随伴する病変の問題点 | 新堂 晃大 | 神経内科 |
| 115 | Neurologist 2013/1 | Global aphasia without hemiparesis: the underlying mechanism examined by transcranial magnetic stimulation | 新堂 晃大 | 神経内科 |
| 116 | Journal of Neuroimaging 2013/1 | In vivo detection of cortical microinfarcts on ultrahigh-field MRI | 伊井 裕一郎 | 神経内科 |
| 117 | BRAIN and NERVE 2012/12 | 血管性認知症障害 高血圧性脳小血管病とアミロイド血管症をめぐって | 富本 秀和 | 神経内科 |
| 118 | 神経治療学 2013/3 | 血管性認知症の予防と治療 | 富本 秀和 | 神経内科 |
| 119 | 脳卒中 2013/3 | 脳小血管病の概念と分類 | 富本 秀和 | 神経内科 |
| 120 | 2012/09 Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. | Preoperative management of patients with gynecologic malignancy complicated by existing venous thromboembolism. | Tabata T | 産婦人科 |
| 121 | 2012/10 周産期医学 | 胎児心拍数モニタリング | 神元有紀 | 産婦人科 |
| 122 | 2012/11 日本産婦人科学雑誌 | シンポジウム2: 周産期「妊娠とインスリン抵抗性」 欧米化した食生活が母体ならびに次世代のインスリン抵抗性に及ぼす影響-胎児プログラミングからみた耐糖能異常発症機序の解析- | 梅川 孝 | 産婦人科 |
| 123 | 2013/3 Arch Gynecol Obstet. | Large or persistent lymphocyst increases the risk of lymphedema, lymphangitis, and deep vein thrombosis after retroperitoneal lymphadenectomy for gynecologic malignancy. | Tabata T | 産婦人科 |
| 124 | Neurol Med Chir (Tokyo). 2012. | Evidence-based guidelines for the management of aneurysmal subarachnoid hemorrhage. English Edition. | 滝 和郎 | 脳神経外科 |
| 125 | Neuroradiology 2012. | Factors predicting retreatment and residual aneurysms at 1 year after endovascular coiling for ruptured cerebral aneurysms: PRESAT in Japan. | 滝 和郎 | 脳神経外科 |
| 126 | J Clin Neurosci. 2013. | Importance of independently evaluated initial anatomic result after endovascular coiling for ruptured cerebral aneurysms. | 滝 和郎 | 脳神経外科 |
| 127 | Cell Death & Disease 2012. | microRNA-34a up-regulation during seizure-induced neuronal death. | 佐野貴則 | 脳神経外科 |

2 論文発表等の実績

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|---|---|------------|------------|
| 128 | Neurol Med Chir (Tokyo) 2013. | Changes in hemodynamics after placing intracranial stents. | 種村 浩 | 脳神経外科 |
| 129 | Stroke. 2013.. | High-risk plaque for carotid artery stenting evaluated with 3-dimensional t1-weighted gradient echo sequence. | 種村 浩 | 脳神経外科 |
| 130 | Stroke. 2013. | Low wall shear stress is independently associated with the rupture status of middle cerebral artery aneurysms. | 三浦洋一 | 脳神経外科 |
| 131 | 日本味と匂学会誌 (2012.12) | 外傷性嗅覚障害に対する抗炎症治療効果のタイムリミット | 小林 正佳 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 132 | Equilibrium Research (2012.12) | 若年者のめまい症例の臨床的検討 | 竹内 万彦 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 133 | Audiology Japan (2012.08) | 難聴遺伝子の保因者診断を行った一例 | 竹内 万彦 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 134 | 耳鼻臨床 (2012.6) | 原発性線毛運動不全症の中耳病変の検討 | 竹内 万彦 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 135 | International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology Extra.2012 | Primary ciliary dyskinesia in two siblings. | Tanaka T | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 136 | Clinical Radiology. 2013 Feb | CT-fluoroscopy in chest interventional radiology: sliding scale of imaging parameters based on radiation exposure dose and factors increasing radiation exposure dose. | 山尾 覚一 | 中央放射線部 |
| 137 | Stroke 2013年1月 | High risk plaque for carotid artery stenting evaluated with 3D TIWGE a guern | 前田 正幸 | 放射線科 |
| 138 | J Neuroimaging 2013年1月 | in vivo detection of until microinfarcts on ultrashort-field MRI | 前田 正幸 | 放射線科 |
| 139 | ann nucl med 2012年4月 | Relation between FDG uptake and apparent diffusion coefficients in glioma and malignant lymphoma. | 前田 正幸 | 放射線科 |
| 140 | Journal of allergy and clinical immunology(2013,Mar) | Cord blood transplantation combined with rituximab for Wiskott-Aldrich syndrome with autoimmune thrombotic thrombocytopenic purpura. | 豊田 秀実 | 小児科 |
| 141 | Haematologica(2013,Jan) | Interleukin-10 spot-forming cells as a novel biomarker of chronic graft-versus-host disease. | 平山 雅浩 | 小児科 |
| 142 | Europace(2013) | Public access defibrillation improved the outcome after out-of-hospital cardiac arrest in school-age children: a nationwide, population-based, Utstein registry study in japan. | 三谷 義英 | 小児科 |
| 143 | Clinical and experimental immunology (2013,Mar) | Efficacy of azithromycin in preventing lethal graft-versus-host disease. | 岩本 彰太郎 | 小児科 |
| 144 | 嚥下医学 2012 10月 | 深頸部膿瘍治療後の嚥下障害例の検討 | 石永 一 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 145 | 頭頸部癌 2012 10月 | 化学放射線同時療法を行った中・下咽頭扁平上皮癌症例に対する患者調査 | 石永 一 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 146 | Eur Arch Otorhinolaryngol 2013 3月 | Descending necrotizing mediastinitis from deep neck infection | Ishinaga H | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 147 | Pharmacology 2013 2月 | Effects of IL-31 on MUC5AC Gene expression in nasal allergic inflammation | Ishinaga H | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 148 | Case Rep Otolaryngol 2013 3月 | Aggressive giant cell reparative granuloma of the nasal cavity | Ishinaga H | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 149 | Clinical & Experimental Immunology(2013.3) | Efficacy of azithromycin in preventing lethal graft-versus-host disease | 岩本彰太郎 | 細胞移植療法部 |
| 150 | Cancer Epidemiology 2012年4月 | High serum levels of soluble interleukin-2 receptor in acute myeloid leukemia: Correlation with poor prognosis and CD4 expression on blast cells | 中瀬一則 | がんセンター |
| 151 | European Journal of Haematology 2013年1月 | Clinical utility of a panfungal polymerase chain Reaction assay for invasive fungal diseases in Patients with haematological disorders | 菅原由美子 | がんセンター |
| 152 | Journal of Cardiology Cases 2013. 3 | Marked improvement of renal failure and severe hypertension after renal artery stenting in the solitary functioning kidney | 澤井俊樹 | 循環器内科 |

2 論文発表等の実績

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|---|---|-----------------|----------|
| 153 | Respirology 2012,5 | Correlation between circulating fibrocytes, and activity and progression of interstitial lung diseases. | Fuhiwara A | 総合内科 |
| 154 | Respirology 2012,5 | Correlation between circulating fibrocytes, and activity and progression of interstitial lung diseases. | Fuhiwara A | 総合内科 |
| 155 | Lung | Role of thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor in allergic bronchial asthma | | 総合内科 |
| 156 | 治療 2012. 4 | 飲み過ぎでおこる身体の病気にはどのような物がありますか？ | 藤田 尚己 | 消化器・肝臓内科 |
| 157 | 医学のあゆみ 2012. 5 | インクレチンの肝代謝及ぼす作用 | 藤田 尚己 | 消化器・肝臓内科 |
| 158 | C型慢性肝炎に対する瀉血 マニュアル 2012 | Chapter5 鉄制限食 | 藤田 尚己 | 消化器・肝臓内科 |
| 159 | 臨床栄養 臨時増刊 腸管と免疫・栄養 腸内細菌から疾患を理解する 2012. 5 | ALD, NASH | 岩佐 元雄 | 消化器・肝臓内科 |
| 160 | アルコールと医学生物学 2012. 8 | アルコール性肝炎障害患者における肝内酸化ストレスの臨床的意義 | 藤田 尚己 | 消化器・肝臓内科 |
| 161 | 医学のあゆみ 2012. 8 | ミニマル肝性脳症と脳画像 | 岩佐 元雄 | 消化器・肝臓内科 |
| 162 | 臨床検査 2012. 12 | 〈検査とその読み方〉アルコールとメタボリック症候群 | 岩佐 元雄 | 消化器・肝臓内科 |
| 163 | 医薬ジャーナル 2012. 12 | NAFLD/NASH治療～現状と課題～ | 岩佐 元雄 | 消化器・肝臓内科 |
| 164 | 消化器内科 20 | メタボリック症候群関連因子に及ぼす飲酒集荷の影響－問題飲酒者101例の断酒における前向き研究を含めて | 藤田 尚己 | 消化器・肝臓内科 |
| 165 | 日本アルコール・薬物医学 改雑誌 2013. 1 | アルコール性肝障害患者における肝機能等身体に及ぼす飲酒量低減の効果 | 藤田 尚己 | 消化器・肝臓内科 |
| 166 | 臨床と研修 2013. 2 | アルコール性肝障害 | 藤田 尚己 | 消化器・肝臓内科 |
| 167 | J Hepatol 2012,4 | Impaired bone morphogenetic protein signaling causes hepcidin deficiency in patients chronic hepatitis C | Fujita N | 消化器・肝臓内科 |
| 168 | Esophagus 2012,5 | Caucasian ethnicity as risk factor for more severe mucosal damage in gastroesophageal reflux disease | Horiki N | 消化器・肝臓内科 |
| 169 | Metab Brain Dis 2012,5 | Regional reduction in gray and white matter volume in brains of cirrhotic patients:voxel-based analysis MRI | Iwasa M | 消化器・肝臓内科 |
| 170 | J Gastroenterol Hepatol 2012,6 | Hepatobiliary and Oancreatic:Liver abscess associated with lipoma of | Mifuji-Moroka R | 消化器・肝臓内科 |
| 171 | Thromb Res 2013,4 | Behavior of ADAMTS14 and Von Willebrand factor levels in patients after living donor liver transplantation. | Takahashi N | 肝胆膵・移植外科 |
| 172 | Liver Transpl 2012,12 | Dual cytoprotective effects of splenectomy for small-for-size liver transplantation in rats | Kuriyama N | 肝胆膵・移植外科 |
| 173 | Int J Chron Obstruct Pulmon Dis 2012 Dec | Indacaterol improves daily physical activity in patients with chronic obstructive pulmonary disease. | Hataji O | 呼吸器内科 |
| 174 | PLoS One. 2012;7 | Efficacy of a novel class of RNA interference therapeutic agents. | Hamasaki T, | 呼吸器内科 |
| 175 | Immunobiology. 2013 Feb | Differential role of regulatory T cells in early and late stages of pulmonary fibrosis. | Boveda Ruiz D | 呼吸器内科 |
| 176 | Diabet Med. 2012 Jul | Correlation of circulating dehydroepiandrosterone with activated protein C generation and carotid intima-media thickness in male patients with type 2 diabetes. | Suzuki T | 糖尿病内科 |
| 177 | J Thromb Haemost. 2012 Mar | Exogenous activated protein C inhibits the progression of diabetic nephropathy. | Boveda Ruiz D | 呼吸器内科 |
| 178 | 糖尿病(0021-437X)55巻5号 | 拡張型心筋症を伴い、酢酸オクトレオチドによる治療を試みた先端巨大症合併糖尿病の1例 | 坂本 正子 | 糖尿病内科 |
| 179 | he Lipid, 2012 | 妊娠中に著しい脂質異常を呈した糖尿病合併妊娠の1例 | 鈴木 俊成 | 糖尿病内科 |

2 論文発表等の実績

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|--|--|---------------------|--------|
| 180 | Eur J Cardiothorac Surg 2012 Jun | The value of pleural lavage cytology examined during surgery for primary lung cancer. | Takao M | 呼吸器外科 |
| 181 | Vascular Pharmacology 2012;Jan-Feb | Inhibition of mitogen activated protein kinase activated protein kinase II with MMI-0100 reduces intimal hyperplasia ex vivo and in vivo. | Muto A | 心臓血管外科 |
| 182 | Translational psychiatry . (2012). | Replication and meta-analysis of TMEM132D gene variants in panic disorder. | Erhardt A | 精神科 |
| 183 | Psychopharmacology. (2013). | Differential mechanisms underlie the regulation of serotonergic transmission in the dorsal and median raphe nuclei by mirtazapine: a dual probe microdialysis study. | Fukuyama K | 精神科 |
| 184 | Neuroscience letters. (2012). | Levetiracetam inhibits neurotransmitter release associated with CICR. | Fukuyama K | 精神科 |
| 185 | BioPsychoSocial medicine. (2012) | The development of agoraphobia is associated with the symptoms and location of a patient's first panic attack. | Hara N | 精神科 |
| 186 | Peer J (2013) | Genome-wide association study of HLA-DQB1*06:02 negative essential hypersomnia. | Miyagawa T | 精神科 |
| 187 | Neuropsychobiology. (2012). | Electroencephalographic dipole source modeling of frontal intermittent rhythmic delta activity. | Motomura E | 精神科 |
| 188 | Neuroscience research. (2012a). | Memory-based pre-attentive auditory N1 elicited by sound movement. | Ohoyama K | 精神科 |
| 189 | Psychiatry and clinical neurosciences (2012b). | Source localization of posterior slow waves of youth using dipole modeling. | Ohoyama K | 精神科 |
| 190 | Nature genetics. (2012) | Meta-analysis identifies nine new loci associated with rheumatoid arthritis in the Japanese population. | Okada Y | 精神科 |
| 191 | Translational psychiatry . (2012). | Meta-analysis of genome-wide association studies for panic disorder in the Japanese population. | Otowa T | 精神科 |
| 192 | Journal of affective disorders. (2013). | Prevalence of bipolar disorder in panic disorder patients in the Japanese population. | Sugaya N | 精神科 |
| 193 | Neuropharmacology . (2012a). | Novel delta-receptor agonist KNT-127 increases the release of dopamine and L-glutamate in the striatum, nucleus accumbens and median pre-frontal cortex. | Tanahashi S | 精神科 |
| 194 | British journal of pharmacology. (2012b). | Clozapine, but not haloperidol, enhances glial D-serine and L-glutamate release in rat frontal cortex and primary cultured astrocytes. | Tanahashi S | 精神科 |
| 195 | Neuropharmacology. (2012c). | Dopamine D2 and serotonin 5-HT1A receptors mediate the actions of aripiprazole in mesocortical and mesoaccumbens transmission. | Tanahashi S | 精神科 |
| 196 | Molecular Pharmacology.(2013) | MicroRNA-145 post-transcriptionally regulates the expression and function of P-glycoprotein in intestinal epithelial cells. | Ikemura K | 薬剤部 |
| 197 | European Journal of Pharmacology (2012) | An antioxidant Trolox restores decreased oral absorption of cyclosporine A after liver ischemia-reperfusion through distinct mechanisms between CYP3A and P-glycoprotein in the small intestine. | Ikemura K | 薬剤部 |
| 198 | Biological and Pharmaceutical Bulletin (2012) | Evaluation of basophil CD203c as a predictor of carboplatin-related hypersensitivity reaction in patients with gynecologic cancer. | Iwamoto T | 薬剤部 |
| 199 | YAKUGAKU ZASSHI (2012) | Risk Factor for a Residual Deep Vein Thrombosis after Fondaparinux Administration in Patient with Postoperative Replacement Arthroplasty | Enokiya T | 薬剤部 |
| 200 | PROSTATE CANCER: BIOLOGY, CARCINOGENESIS AND PREVENTION | Normal and Abnormal Differentiation and Proliferation in the Prostate Gland | Yoshiki Sugimura | 泌尿器科 |
| 201 | Oncology Reports December 2012 | Characterization of the low pH/low nutrient-resistant LNCaP cell subline LNCaP-F10 | Kazuhiro Iguchi | 薬剤部 |
| 202 | International journal of urology 2012 Aug | Low incidence of benign lesions in resected suspicious renal masses greater than 2 cm: Single-center experience from Japan. | Norihito Soga | 泌尿器科 |
| 203 | Japanese journal of clinical oncology. 2012 Jun | The long-term results with delayed-combined androgen blockade therapy in local or locally advanced prostate cancer. | Norihito Soga | 泌尿器科 |

2 論文発表等の実績

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|---|---|--------------------|-----------|
| 204 | Journal of cancer research and clinical oncology. 2012 Nov | Preliminary results of intensity-modulated radiation therapy with helical tomotherapy for prostate cancer. | Natsuo Tomita | 放射線科 |
| 205 | Oncology July 2012 | Intermittent Chemotherapy Is a Treatment Choice for Advanced Urothelial Cancer | Takehisa Onishi | 泌尿器科 |
| 206 | Endocrine-related cancer 2012 Sep | Cut off value of time to prostate specific antigen nadir is inversely correlated with disease progression in advanced prostate cancer | Takeshi Sasaki | 泌尿器科 |
| 207 | Pediatric emergency care 2012 | Urinary retention caused by a urethral cystine stone in a 10-month-old infant | Takeshi Sasaki | 泌尿器科 |
| 208 | Tumori 2012 | Ewing's sarcoma(ES)/primitive neuroectodermal tumor(PNET) arising from the adrenal gland : a case report and literature review | Takeshi Sasaki | 泌尿器科 |
| 209 | J Dent Child. 2012 | Leiomyomatous hamartoma of the tongue in an infant: a case report. | Nakanishi K | 口腔外科 |
| 210 | ONCOLOGY REPORTS 2013 | Characterization of phosphodiesterase 2A in human malignant melanoma PMP cells | HIROSHI MORITA | 口腔外科 |
| 211 | Oral Science International 2013 | Two cases of recovery of occlusion by a combination of surgery and orthodontic therapy for adult mandibular impacted teeth | Chu Sato | 口腔外科 |
| 212 | DentoMaxillofacial Radiology 2012 | Synovial chondromatosis of the temporomandibular joint with calcium pyrophosphate dihydrate crystal deposition disease(Pseudogout) | Y Matsumura | 口腔外科 |
| 213 | EXPERIMENTAL AND THERAPEUTIC MEDICINE 2012 | Phosphodiesterase 4 regulates the migration of B16-F10 melanoma cells | YOSHIHIRO WATANABE | 口腔外科 |
| 214 | Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 2012 | Case study of a gingival mucous cyst that developed during distraction of the mandible | Yoshihiro Watanabe | 口腔外科 |
| 215 | Case Reports in Dentistry Volume 2013, Article ID 145282 | Mandibular Ameloblastoma in an Elderly Patient: A Case Report | Nagata K | 口腔外科 |
| 216 | Photodiagnosis Photodyn Ther. 2012 | Hyperthermia enhances the antitumor effect of photodynamic therapy with ALA hexyl ester in a squamous cell carcinoma tumor model. | Yanase S | 口腔外科 |
| 217 | Autoimmune Dis. 2012 | Anti-integrin therapy for multiple sclerosis. | 川本英嗣 | 救命救急センター |
| 218 | J Crit Care. 2013 Aug | Effectiveness of end-expiratory lung volume measurements during the lung recruitment maneuver for patients with atelectasis. | 中橋 奨 | 救命救急センター |
| 219 | Clin Appl Thromb Hemost. 2012 Sep | Analysis of the cutoff values in fibrin-related markers for the diagnosis of overt DIC. | 畑田 剛 | 救命救急センター |
| 220 | Internal Medicine 2012 Aug | A case of HELLP syndrome with multiple complications | 岩下 義明 | 救命救急センター |
| 221 | Clinical and Applied Thrombosis/Hemostasis 2012 Sep | Increased ratio of soluble fibrin formation /thrombin generation in patients with DIC | 今井 寛 | 救命救急センター |
| 222 | INTERNAL MEDICINE 2013 Mar | Oxaliplatin-induced Acute Thrombocytopenia: A Case Report and Review of the Literature | 鈴木 圭 | 救命救急センター |
| 223 | Medical Mycology Case Reports. 2012 | Pulmonary infection caused by Exophiala dermatitidis in a patient with multiple myeloma:A case report and a review of the literature | 鈴木 圭 | 救命救急センター |
| 224 | J Emerg Med. 2013 May | Food poisoning associated with Kudoa septempunctata. | 岩下 義明 | 救命救急センター |
| 225 | Intern Med. 2012 | A case of Ortner syndrome | 岩下 義明 | 救命救急センター |
| 226 | Br J Haematol. 2012 Jun. | Human bone marrow stromal cells simultaneously support B and T/NK lineage development from human haematopoietic progenitors: a principal role for flt3 ligand in lymphopoiesis. | Nakamori Y | 血液内科・腫瘍内科 |
| 227 | Eur J Gastroenterol Hepatol. 2012 Jul | Usefulness of endoscopic submucosal dissection for the treatment of rectal carcinoid tumors. | Hamada Y | 血液内科・腫瘍内科 |

2 論文発表等の実績

| No. | 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----|----------------------------|---|-------------|-----------|
| 228 | Surg Endosc. 2012 Aug. | Magnifying endoscopy for diagnosis of residual/local recurrent gastric neoplasms after previous endoscopic treatment. | Kosaka R | 血液内科・腫瘍内科 |
| 229 | Int J Hematol. 2012 Nov. | Current and future management of NK/T-cell lymphoma based on clinical trials. | Yamaguchi M | 血液内科・腫瘍内科 |
| 230 | J Clin Oncol. 2012 Nov. | Concurrent chemoradiotherapy for localized nasal natural killer/T-cell lymphoma: an updated analysis of the Japan clinical oncology group study JCOG0211. | Yamaguchi M | 血液内科・腫瘍内科 |
| 231 | Clin Cancer Res. 2012 Aug. | Pretreatment EBV-DNA copy number is predictive of response and toxicities to SMILE chemotherapy for extranodal NK/T-cell lymphoma, nasal type. | Ito Y | 血液内科・腫瘍内科 |
| 232 | J Breast Cancer, 2012 | Oncoplastic Technique Combining an Adipofascial Flap with an Extended Glandular Flap for the Breast-Conserving Reconstruction of Small Dense Breasts | 小川 朋子 | 乳腺外科 |
| 233 | 乳癌の臨床, 2012.12 | 広範皮膚切除を必要としたAC領域乳癌に対しB-plasty応用の乳房温存手術を施行した1例 | 小川 朋子 | 乳腺外科 |
| 234 | 乳癌の臨床, 2012, 10 | 広範皮膚切除を必要とした乳房Paget病に対する乳房温存手術 Abdominal advancement flap を用いた乳房形成術 | 小川 朋子 | 乳腺外科 |
| 235 | 乳癌の臨床, 2012, 10 | 診断治療の工夫 腫瘍直上皮膚切除を必要とする乳房温存術における皮膚切開の工夫 | 小川 朋子 | 乳腺外科 |
| 236 | Adv Exp Med Biol. 2012 | Regulation of retinal vascular permeability by betacellulin. | Sugimoto M | 眼科 |
| 237 | J Ophthalmol. 2013 | Uniform suspension of the clustered triamcinolone acetate particle. | Sugimoto M | 眼科 |
| 238 | Clin Ophthalmol. 2013 | Peripheral capillary nonperfusion and full-field electroretinographic changes in eyes with frosted branch-like appearance retinal vasculitis. | Matsui Y | 眼科 |
| 239 | 日本の眼科. 2012 | 黄斑ジストロフィの診断 | 近藤 峰生 | 眼科 |
| 240 | 新しい眼科. 2012 | 腫瘍随伴網膜症の新しい自己抗体の発見 | 近藤 峰生 | 眼科 |
| 241 | 新しい眼科. 2012 | トラボプロスト/チモロールマレイン酸塩配合点眼液への切り替え効果 | 生杉 謙吾 | 眼科 |
| 242 | 日本眼科学会雑誌. 2012 | 片眼性網膜色素変性の長期観察例 | 加藤 久美子 | 眼科 |

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

| | |
|---------|---|
| 管理責任者氏名 | 病院長 伊藤 正明 |
| 管理担当者氏名 | 中央放射線部長 佐久間 肇 医療安全・感染管理部長 兼児 敏浩 医療福祉支援センター長 内田 恵一 事務部総務課長 山田 浩之 事務部医療サービス課長 草川 弥生 薬剤部長 奥田 真弘 |

| | 保管場所 | 管理方法 |
|--|--|---|
| 診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院治療計画書 | 各診療科 | 全科電子カルテを導入 紙カルテは、 外来:一患者各診療科カルテ 入院:一患者共通カルテ方式をとっている。 紙カルテは、 ①外来患者は外来カルテ庫 ②入院患者は入院中は各科病棟、退院後は病歴室に保管。 |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 従業者を明らかにする帳簿 | 総務課 |
| | 高度医療の提供の実績 | 医療サービス課 |
| | 高度医療技術の開発及び評価の実績 | 医療サービス課 |
| | 高度医療の研修の実績 | 総務課 |
| | 閲覧実績 | 総務課 |
| | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医療サービス課 |
| | 入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医療サービス課、薬剤部 |
| | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医療サービス課、医療安全・感染管理部 |
| | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 総務課、医療サービス課、医療安全・感染管理部 |
| | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 総務課、医療サービス課、医療安全・感染管理部 |
| | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医療サービス課、医療安全・感染管理部 |
| | 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 医療サービス課、医療安全・感染管理部 |
| | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 総務課 |
| 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 医療サービス課、医療安全・感染管理部 | |
| 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医療サービス課、医療福祉支援センター | |

| | | 保管場所 | 分類方法 |
|---|---|--------------|------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況 | | |
| | 院内感染のための指針の策定状況 | 総務課 | |
| | 院内感染のための委員会の開催状況 | 総務課 | |
| | 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況 | 総務課 | |
| | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 総務課 | |
| | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | 総務課 | |
| | 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 総務課 薬剤部 | |
| | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 | |
| | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部 | |
| | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | 総務課 | |
| | 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 総務課 臨床工学部 | |
| 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 経営管理課 臨床工学部 | | |
| 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 臨床工学部 | | |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | |
|-------------|-----------------|
| 閲覧責任者氏名 | 病院長 伊藤 正明 |
| 閲覧担当者氏名 | 事務部総務課長 山田 浩之 |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 病態医科学研究棟2階 大会議室 |

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | |
|-----------|--------|------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 0件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 0件 |
| | 歯科医師 | 延 0件 |
| | 国 | 延 0件 |
| | 地方公共団体 | 延 0件 |

○紹介患者に対する医療の提供の実績

| | | | |
|------|-------------------------|---------|------------------------|
| 紹介率 | 78.9% | 算定期間 | 平成24年4月1日 ~ 平成25年3月31日 |
| 算出根拠 | A : 紹介患者の数 | 12,239人 | |
| | B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | 6,898人 | |
| | C : 救急用自動車によって搬入された患者の数 | 706人 | |
| | D : 初診の患者の数 | 18,237人 | |

(注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

| | |
|--|--|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| ・指針の主な内容 <input type="checkbox"/> 医療に係る安全管理のための指針(別添資料 1) <input type="checkbox"/> 安全管理に係る組織図(別添資料 2) <input type="checkbox"/> 医療問題対策委員会内規(別添資料 3) <input type="checkbox"/> 安全管理部内規(別添資料 4)、 <input type="checkbox"/> 重大インシデント発生時の院内連絡体制(別添資料 5) <input type="checkbox"/> 医療の質・倫理検討委員会内規(別添資料 6) | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 年 39 回 |
| ・活動の主な内容 <input type="checkbox"/> 医療問題対策委員会 (年11回) 医療法制に関する事項、医療事故の予防に関する事項、医療事故発生時の対策に関する事項、医療紛争の処理に関する事項及び医療訴訟に関する事項の審議を行う。 <input type="checkbox"/> 安全管理部会議 (年 11回) インシデントレポートの収集と管理、報告された事故の原因や状況の分析、原因分析の結果を踏まえて事故発生の防止策と事故発生後の対応策を講じ、必要な情報を現場のスタッフにフィードバックする。 また、医療事故防止に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること、医療事故防止にかかわる業務改善の提言・指導に関すること、安全管理に係わる教育・研修・啓発に関すること、医療事故防止対策マニュアルに関すること、ヒヤリハットニュースの発行に関すること、リスクマネージャー会議に関すること。 <input type="checkbox"/> リスクマネージャー会議 (年 6回) 医療問題対策委員会及び安全管理室会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底さ <input type="checkbox"/> 医療の質・倫理検討委員会 (年 11回) 死亡例及び重症合併症例の検討、先端医療、終末期医療、診療拒否、移植医療、その他の倫理的問題について審議する。 | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 3 回 |
| ・研修の主な内容 従業者の医療安全に関する意識向上を図っている。 (全職員対象とは別に新規採用者のみを対象とした医療安全研修会及び全職員を対象とした医療事故被害者による講演等) | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | |
| ・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 <input type="checkbox"/> ヒヤリハットニュースを発行(月1回及び必要に応じて随時)し、リスクマネージャー会議を開催(年6回)することにより、リスクマネージャーを通じて、インシデントレポートから積極的に収集した情報並びに医療問題対策委員会、医療の質・倫理検討委員会及び安全管理部会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底する。 <input type="checkbox"/> 各医療現場のリスクマネージャーにより、医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法について独自に検討及び提言を行う。 <input type="checkbox"/> 各医療現場のリスクマネージャーにより、独自に事故防止のための研修会及び勉強会を開き、医療事故防止のための啓蒙活動を行う。 | |
| ⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有(3名) <input type="checkbox"/> 無 |
| ⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有(4名) <input type="checkbox"/> 無 |
| ⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| ・所属職員: 専任(3)名 兼任(14)名 ・活動の主な内容 医療安全・感染管理部(危機管理委員会として平成12年6月12日設置、平成13年6月19日安全管理委員会に委員会名変更、平成14年4月1日同委員会を廃止し、安全管理室を設置、平成19年1月1日安全管理部に改組、平成22年4月1日同部を廃止し、感染制御部と合併し、医療安全・感染管理部に改組) 病院内における医療事故の防止及び医療の安全性の確保のため、安全且つ適切な医療体制を確立する。 | |
| ⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |

院内感染のための体制の確保に係る措置

| | | | | | | | | | |
|--|--|----------------------|---------------------|-----------------|--------------------|-------------------|------------------|----------------|--|
| ① 院内感染のための指針の策定状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | | | | | | | | |
| <p>・指針の主な内容</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</td> <td>2. 委員会等の組織に関する基本的事項</td> </tr> <tr> <td>3. 職員研修に関する基本方針</td> <td>4. 発生状況の報告に関する基本方針</td> </tr> <tr> <td>5. 感染発生対応に関する基本方針</td> <td>6. 指針の閲覧に関する基本方針</td> </tr> <tr> <td>7. その他の必要な基本方針</td> <td></td> </tr> </table> | | 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 | 2. 委員会等の組織に関する基本的事項 | 3. 職員研修に関する基本方針 | 4. 発生状況の報告に関する基本方針 | 5. 感染発生対応に関する基本方針 | 6. 指針の閲覧に関する基本方針 | 7. その他の必要な基本方針 | |
| 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 | 2. 委員会等の組織に関する基本的事項 | | | | | | | | |
| 3. 職員研修に関する基本方針 | 4. 発生状況の報告に関する基本方針 | | | | | | | | |
| 5. 感染発生対応に関する基本方針 | 6. 指針の閲覧に関する基本方針 | | | | | | | | |
| 7. その他の必要な基本方針 | | | | | | | | | |
| ② 院内感染のための委員会の開催状況 | 年 11 回 | | | | | | | | |
| <p>・活動の主な内容</p> <p>1. 院内感染の実態の把握, 薬剤耐性の動向その他院内感染のための調査, 研究を行う。</p> <p>2. 感染症患者及び健康保菌者等の取扱い, 滅菌及び消毒, 清潔区域及び医療材料の清潔保持その他院内感染防止のための予防対策を行う。</p> <p>3. 院内感染防止についての指針の作成及び職員の教育, 指導を行う。</p> | | | | | | | | | |
| ③ 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況 | 年 2 回 | | | | | | | | |
| <p>・研修の主な内容</p> <p>従業者の感染管理に関する知識向上を図っている。(院内感染対策、職員手帳、HIV感染症 等)</p> | | | | | | | | | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | | | | | | | | | |
| <p>・病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>地域の感染対策強化を図るために, 感染対策セミナーを行っている。(月1回程度)</p> | | | | | | | | | |

医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|--|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| ② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年 2 回 |
| ・活動の主な内容 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書について 麻薬の取扱いについて (同一内容で複数回実施) | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 年 1 回 |
| ・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・業務の主な内容 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項(麻薬等の管理方法等) 3. 患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 6. 他施設(病院等、薬局等)との関係に関する事項 | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| ・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 【収集方法】 医薬品に係る添付文書等の収集、メーカー等から収集、インターネット、文献等からの収集 【周知方法等】 薬剤部発行の院内医薬品情報誌に掲載し周知、オンライン医薬品集に「お知らせ」として掲載し周知、 薬剤部ホームページへの掲載、必要に応じて院内メール又は文書等の通知にて周知、病棟担当薬剤師 がカンファレンス等にて説明し周知 【改善方法等】 業務実施状況を確認し、必要に応じて手順書の改定を行う 院内で発生した副作用を収集する体制の整備 | |

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | | | | | | | |
|---|--|------------------|---------------|---------------|------------------------|-----------------------|--|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | | | | | | |
| ② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年 1 回 | | | | | | |
| <p>・活動の主な内容</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 有効性、安全性に関する事項</td> <td>2. 使用方法に関する事項</td> </tr> <tr> <td>3. 保守点検に関する事項</td> <td>4. 不具合が発生した場合の対応に関する事項</td> </tr> <tr> <td>5. 使用に関して特に法令上遵守すべき事項</td> <td></td> </tr> </table> | | 1. 有効性、安全性に関する事項 | 2. 使用方法に関する事項 | 3. 保守点検に関する事項 | 4. 不具合が発生した場合の対応に関する事項 | 5. 使用に関して特に法令上遵守すべき事項 | |
| 1. 有効性、安全性に関する事項 | 2. 使用方法に関する事項 | | | | | | |
| 3. 保守点検に関する事項 | 4. 不具合が発生した場合の対応に関する事項 | | | | | | |
| 5. 使用に関して特に法令上遵守すべき事項 | | | | | | | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 年 回 | | | | | | |
| <p>・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・保守点検の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. メーカー提供の点検マニュアル及びメーカー指示に従い実施 2. 日常点検を実施し、異常があればメーカー点検・修理 | | | | | | | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | | | | | | | |
| <p>・医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 装置毎に添付文書・保守点検マニュアル及び安全性情報を冊子として配布 2. 管理、機器に関わる者に関してはWG等を設置し周知徹底を行う 3. 医薬品医療機器総合機構への病院ホームページ及びME室ホームページからのリンク 4. ME室ホームページからのマニュアル等の閲覧システム 5. 看護師と連携した医療機器中央管理委員会(年4回開催)にて周知 | | | | | | | |

4. 三重大学医学部附属病院医療に係る安全管理のための指針

1) 安全管理に関する基本的な考え方

安心できる医療環境のもとで良質で高度な医療を適切に提供することは三重大学医学部附属病院の理念であり、その根幹をなすものは「安全性」の確保である。未然に事故を防止することは医療機関の責務であり、特定機能病院には一般病院以上に安全管理体制の整備・充実が求められている。

このために、安全管理に関する院内の責任体制を明確にし、「良質で高度な医療の提供」に際して求められる安全確保のための指針を制定する。

2) 安全管理のための委員会、その他医療機関内の組織に関する基本的事項

1. 医療に係る安全管理体制の最高決定機関として安全管理に関わる部門の責任者等で構成する三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会（以下「医療問題対策委員会」という。）を置き、病院長を委員長とし委員で構成する委員会を月1回以上開催する。
医療問題対策委員会に関し必要な事項は、三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会内規に定める。
2. 安全管理推進の確保のため、ゼネラルリスクマネージャー（以下GRMという）及びその他各部門の安全管理責任者等で構成する三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部（以下「医療安全・感染管理部」という。）を置く。部員で構成する医療安全会議（拡大カンファレンス）を月2回、さらにGRMを中心とした医療安全会議（コアカンファレンス）を月2回以上開催する。
医療安全・感染管理部に関し必要な事項は、三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部内規に定める。
3. 医療に係る安全管理を専任で行う者としてゼネラルリスクマネージャーを置く。
ゼネラルリスクマネージャーの業務等については、三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部内規に定める。
4. 医療現場での事故防止、安全管理の中心的な役割を担う者として、院内各部門にリスクマネージャーを置く。
5. 医療の現場で具体的な安全対策を推進し、安全性の高い医療を提供するために医療安全・感染管理部の下にリスクマネージャー会議を定期的で開催する。
リスクマネージャー会議に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部内規に定める。
6. 医薬品の安全使用のための責任者として、医薬品安全管理責任者を配置する。
7. 医療機器の安全使用のための責任者として、医療機器安全管理責任者を配置する。
8. その他本院における医療に係る安全管理体制に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部内規に定める。

3) 安全管理のための職員研修に関する基本方針

1. 医療の安全管理のための職員研修（以下「研修」という。）は全職員を対象として年2回以上開催する。必要に応じ医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について職員に周知徹底を行うことで個々の職員の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識向上を図る。
2. 研修参加者の学習達成の評価とともに具体的・現実的な目標を定め、目標達成の観点から評価する。

3. 研修の実施内容や参加状況を記録に残し、それらの記録の積み重ねから研修の質的充実を図る。
4. その他研修に関し必要な事項は、医療安全・感染管理部で定める。

4) 医療機関内における事故報告書等の医療に係る安全確保のための改善策に関する基本方針

医療安全・感染管理部は、あらかじめ定められた手順により報告されたインシデントや医療事故及び他機関での医療の安全管理に関する事例の収集・分析に基づき、医療の安全管理の問題点を把握し病院全体の医療の安全管理や改善策の具体的な実践を指導監督するとともに、その実施状況を評価する。

5) 医療事故等発生への対応に関する基本方針

1. 本院において医療事故が発生した場合、当事者は必要と考えられる医療上の最善の処置を講じ、患者及びご家族等に誠実で適切な対応をするとともに、あらかじめ定められた手順により速やかに病院長に報告しなければならない。
2. 医療安全会議で医療事故と判定された場合の報告は、診療録や看護記録に基づき作成するものとする。
3. 医療事故等発生時の報告・対応に関し必要な事項は別に定める。

6) 患者等に対する当該方針の閲覧に関する基本方針

患者等が指針の閲覧を希望する場合は、閲覧に供する。

7) 患者からの相談への対応に関する指針

患者等から苦情、相談に適切に応じる体制を確保するため三重大学医学部附属病院医療福祉支援センター（以下「支援センター」という。）を設置し、その活動を本院の安全対策等の見直しに活用するものとする。支援センターの活動の趣旨、設置場所、担当者及びその責任者、対応時間等については、院内に明示し周知を図る。

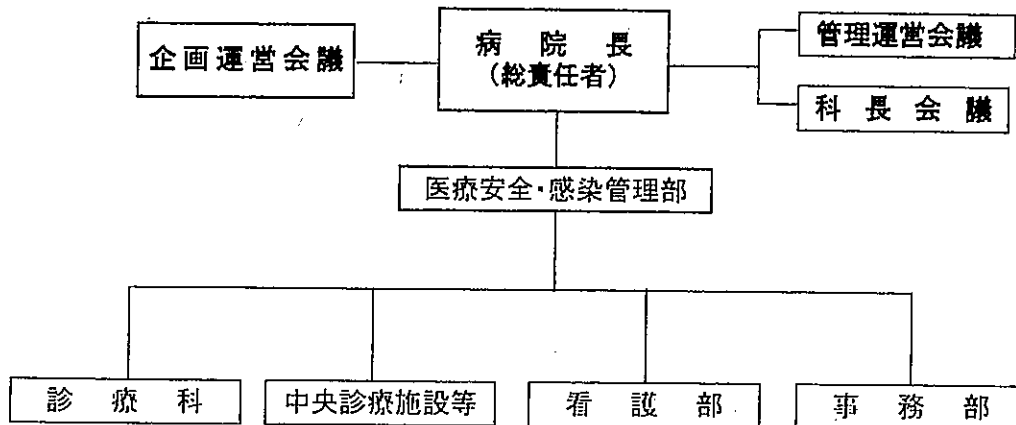
その他、支援センターの設置に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院医療福祉支援センター規程に定める。

8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針

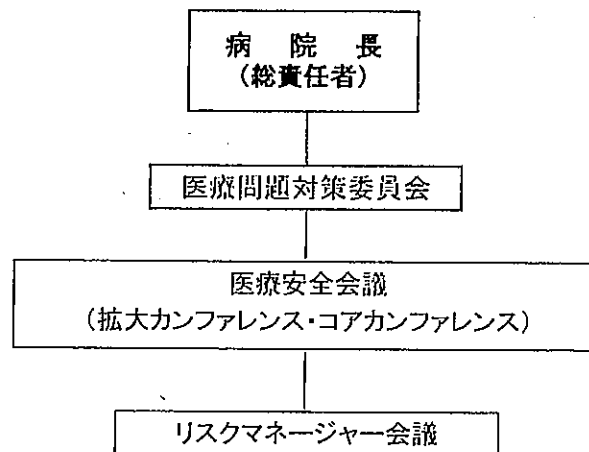
1. 医療安全・感染管理部は各診療科等に共通するリスクマネジメントマニュアル（以下「マニュアル」という。）を、また、各診療科等はそれぞれの部門に特化したマニュアルを作成し、関係職員に周知して医療事故等の防止を図るものとする。作成したマニュアルは常に見直しを行い随時改善するものとする。
2. 医療の安全に関する広報紙の発行等により医療従事者に速やかに医療の安全に関する情報を提供する。
3. 医療従事者の医療安全に関する意識向上を図るため、医療事故防止のためのポスターや標語を募集し、これらを院内に掲示することにより医療安全に関する患者等の理解の促進を図る。

| |
|-------------|
| 2004年2月制定 |
| 2007年10月改訂 |
| 2013年7月改訂 |
| (医療問題対策委員会) |

(5) 安全管理に係る組織



(6) 安全管理に係る委員会・会議



*三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部及び医療問題対策委員会の内規は【巻末附(1)及び(2)参照】

三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会内規

第1条 三重大学医学部附属病院（以下「病院」という。）は病院における医療事故の予防及び発生時の対応並びに医事紛争の処理に関し、常時、適切、かつ十分な行為を遂行していなければならない。

第2条 病院に医療問題対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
- (2) 副病院長（診療・病院機能評価担当）
- (3) 診療科長のうちから 3名
- (4) 中央診療施設等の部長又は副部長のうちから 1名
- (5) 各診療科及び中央診療施設等の大学教員から推薦された者 3名
- (6) 医療安全・感染管理部長
- (7) 薬剤部長
- (8) 看護部長
- (9) 事務部長
- (10) その他病院長が必要と認めた者

2 前項第3号、第4号及び第5号の委員は、病院長が任命する。

3 第1項第3号、第4号及び第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 医事法制に関する事項
- (2) 医療事故の予防に関する事項
- (3) 医療事故発生時の対策に関する事項
- (4) 医事紛争の処理に関する事項
- (5) 医療訴訟に関する事項
- (6) その他必要と認めた事項

第5条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

第7条 委員会は、必要に応じて特別委員会を設置することができる。特別委員会の構成等については、その都度委員会において定める。

第8条 委員会の庶務は、病院事務部医療サービス課において行う。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成21年4月22日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成25年8月1日から施行する。

三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部規程

(趣旨)

第1条 この規程は、三重大学医学部附属病院規程第16条第8項の規定に基づき、三重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部（以下「医療安全・感染管理部」という。）の組織及び業務について必要な事項を定める。

(目的)

第2条 医療安全・感染管理部は、医療事故の防止及び医療の安全性の確保及び感染症対策を円滑におこなうため、安全かつ適切な医療体制を確立することを目的とする。

(組織)

第3条 医療安全・感染管理部に、次の部門を置く。

- (1) 医療安全部門
- (2) 感染管理部門

(業務)

第4条 医療安全・感染管理部医療安全部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 「ヒヤリ・ハット報告書」の収集・調査・防止対策及び防止対策の周知徹底に関すること。
- (2) 医療事故防止・安全管理に係わる病院内の巡視・点検・評価に関すること。
- (3) 医療事故防止・安全管理に係わる業務改善の提言・指導に関すること。
- (4) 医療安全に係わる教育・研修・啓発に関すること。
- (5) 医療事故防止対策マニュアルに関すること。
- (6) リスクマネージャー会議に関すること。
- (7) その他医療の安全管理に関すること。

2 医療安全・感染管理部感染管理部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 感染症発生の動向の調査及び把握に関すること。
- (2) 感染症対策の立案及び指導に関すること。
- (3) 感染症対策の情報提供に関すること。
- (4) 重症感染症及び特殊感染症の診断及び治療に関すること。
- (5) 職員の感染症についての教育及び啓発に関すること。
- (6) 医療廃棄物の取扱いに関すること。
- (7) 院内感染対策委員会（部会、専門委員会及び感染対策チームを含む。）との連絡及び調整に関すること。
- (8) その他感染症対策に関すること。

(職員)

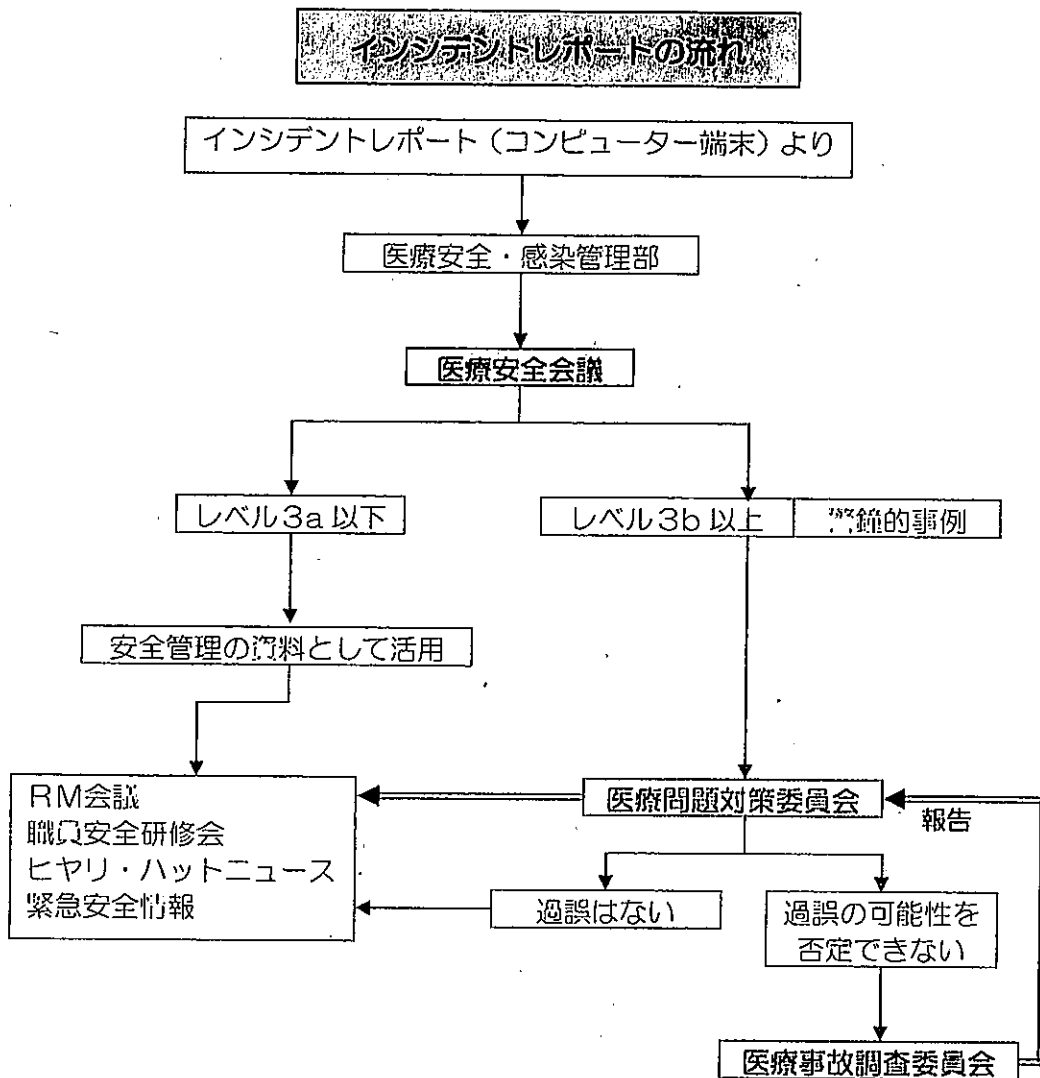
第5条 医療安全・感染管理部に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 部長
- (2) 副部長
- (3) ゼネラルリスクマネージャー 2名
- (4) 看護師長（院内感染対策担当）
- (5) 診療科から推薦された者 1名
- (6) 中央診療施設等から推薦された者 3名
- (7) 臨床研修・キャリア支援センターから推薦された者 1名
- (8) 医療情報管理部から推薦された者 1名
- (9) 薬剤部から推薦された者 1名
- (10) 看護部から推薦された者 1名
- (11) 医員（研修医） 1名
- (12) 医療サービス課長
- (13) 事務系の職員 若干名
- (14) その他病院長が必要と認めた者 若干名

(任期)

第6条 前条第5号から第11号及び第13号の職員の任期は2年とし、再任を妨げない。

この規程は、平成25年8月1日から施行する。



*インシデントレポートの唯一の目的は医療安全のためであり、報告者・当事者の個人情報には完全に保護され、報告によって評価を受けるようなことや不利益を被るようなことは決してない。

*インシデントレポートは軽微と思われる事例でも原則一両日中に提出する。

*重大インシデントが発生した時は現場での対応を優先し、「重大インシデント発生時の院内連絡体制」に従い、口頭での連絡を行う。

*レベル、事故性の有無に拘わらず警鐘的事例等も報告の対象とする。

*クレーム報告・ハラスメント事例もレポートシステムから報告可能である。

三重大学医学部附属病院医療の質・倫理検討委員会規程

(設置)

第1条 三重大学医学部附属病院に、三重大学医学部附属病院医療の質・倫理検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 死亡例及び重症合併症例の検討等診療の質に関する事。
- (2) 先端医療、終末期医療及び治療拒否における倫理的問題に関する事。
- (3) 移植医療における倫理的問題に関する事。
- (4) その他診療における倫理的問題に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
 - (2) 副病院長
 - (3) 病理部長
 - (4) 医療安全・感染管理部長
 - (5) 薬剤部長
 - (6) 看護部長
 - (7) 副看護部長 1名
 - (8) 診療科（精神科神経科を除く。）の常勤医師 2名
 - (9) 精神科神経科及び臨床麻酔部の常勤医師 各1名
 - (10) 医療安全・感染管理部のゼネラルリスクマネージャー
 - (11) 医療福祉支援センターの医療ソーシャルワーカー
 - (12) 三重大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会の委員長
 - (13) 事務部長
 - (14) 医療サービス課長
 - (15) 倫理・法律分野の有識者 若干名
 - (16) その他委員会が必要と認めた者
- 2 前項第15号の委員は、学外者又は三重大学大学院医学系研究科、医学部及び医学部附属病院以外の部局に属する者とする。
- 3 第1項第8号、第9号、第15号及び第16号の委員は、病院長が任命又は委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第8号、第9号、第15号及び第16号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び開催)

第5条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
- 4 委員会は、原則として毎月1回開催する。ただし、委員長が必要と認めたときは、臨時に委員会を招集することができる。

(申請手続)

第6条 第2条第2号から第4号に掲げる事項の審査を希望する者（以下「申請者」という。）は、倫理審査申請書（別紙様式第1）に必要事項を記入し、関係書類を添えて、所属の診療科長又は中央診療施設等の部長（以下「所属長」という。）を経て病院長に提出しなければならない。

(会議)

第7条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。ただし、特に重要な事項については、3分の2以上の出席を必要とする。

- 2 委員会の議事は、出席委員全員の合意によるものとする。